

「美術・工芸科新設 / 中高連携陶芸教育」

長崎県立波佐見高等学校 立井 匡樹

1 はじめに

波佐見町は長崎県の中央北部に位置し、佐賀県有田町と隣接する県境の町で、山あいの盆地の地形で長崎県内では唯一の「海無し町」です。江戸時代初期、今から約400年前に町内三股地区で三股陶石が発見されて以来、焼き物の産地として栄え、現在に至ります。町の人口は15,182人(平成26年9月)、町の就業人口約8,500人のうち窯業関係者は約4割を占め、110社程の窯元が陶磁器の生産を行っています。特に和食器の出荷額は国内全体の12%にも及び、長崎県下では最大、全国でも第3位の実績を誇っています。

その波佐見町にある波佐見高校は町内唯一の高校として、『人はやきものを作り、やきものは人を創る』の陶芸教育の精神を学校経営の柱に据え、いのちを重んじ、心豊かでたくましい人間の育成をめざしています。平成26年度から、長崎県公立高校初となる芸術系学科「美術・工芸科」が新設され、町内外からより一層の飛躍が期待されています。

2 波佐見焼について

慶長3年(1598)、文禄・慶長の役に参加した大村藩主・大村喜前は朝鮮の陶工・李祐慶兄弟たちを連れ帰りました。その翌年彼らが波佐見町村木の畑ノ原、古皿屋、山似田に階段状連房式登窯を築き、波佐見焼が始まったと伝えられています。はじめは施釉陶器をつくっていましたがその後、磁器の原料が発見されてからは急速に染付と青磁を中心とする磁器生産に移行します。後に大村藩の特産品となり、江戸後期には日本一の磁器生産量を誇るまでになりました。

当時の波佐見焼を代表するのが「コンプラ瓶」と「くらわんか碗」です。コンプラ瓶は醤油や酒用ボトルとして、長崎出島からオランダ・インドネシアなどに向けて盛んに輸出されていました。瓶にはオランダ語で「日本の酒」、「日本の醤油」と記されています。一方くらわんか碗は少し粗い白磁に呉須(藍色)で簡単な模様を描いた器で、大量生産によって、それまで庶民の手に届かなかった磁器碗を手頃な価格にし、多くの庶民の人気を得ます。日本の器・食文化の発展に大きな影響を与えました。毎日の暮らしの中で使える、手頃でしかも良質な食器を提供するという姿勢は、現在まで変わることなく波佐見焼の心となっています。



三十石船とくらわんか舟(安藤広重画)



くらわんか碗



コンプラ瓶

3 波佐見高校について

波佐見高校は昭和52年4月に長崎県立波佐見高等学校として開校しました（普通科2クラス・商業科1クラス）。平成7年度から普通科に陶芸デザインコース（20名）を設置し、地元陶磁器業界にも多数の人材を輩出してきました。現在までに5300名を越える卒業生が本校を巣立ち、その中には316名の陶芸デザインコースの卒業生が含まれています。現在、波佐見町はもとより全国各地で卒業生が活躍しています。

陶芸デザインコースを設置後、陶芸・美術・デザインの各分野で、県高等学校総合文化祭美術展（現在11年連続選抜出品中）をはじめ、長崎県美術展覧会などにおいて多数の入選作を出展するなど、高校美術界での活躍はめざましく、県内外から注目を集めています。

近年、陶磁器製造業は様々な素材を用いた「総合的なものづくり」産業へと変化しつつあります。伝統的な工芸技術に加えて、機能性やデザインがより重視され、陶芸の基本的技能だけではなく、美術系大学や専門学校で習得可能な高い芸術的感性を有する人材が求められるようになりました。それに伴い、平成26年度から「美術・工芸科」を新設し、地域の人材ニーズや生徒の多様な進路希望に応え、より専門的な教育が可能になりました。

～陶芸デザインコースから美術・工芸科へ～

ポイント① 長崎県公立高校初の芸術系学科が誕生・・・県内設置校 0校 → 1校

ポイント② 美大受験に対応した基礎技能科目を設定・・・専門科目単位数 22単位 → 35単位

ポイント③ 3年次はゼミ形式での個別指導・・・教諭1名あたりの生徒数 20名 → 5名

ポイント④ 基礎分野の充実で、美術系大学進学に対応・・・美術系学校進学者数 3名 → 15名

ポイント⑤ 校外活動や作品制作等の体験型学習を充実・・・実施時間 20時間 → 100時間

※その他、美術・工芸科生徒は、美術部か陶芸部のどちらかに所属し部活動に励むように勧められています。授業と連動した指導もし易くなり、部活動の活性化にも繋がりました。また、公募展出品者が増え、その結果、入選・入賞者数も増加しました。

美術・工芸科 体験型学習活動一覧

番号	予定日	行事名	場所	内容	備考	実施時間
1	4月中旬～	佐世保市民展作品制作	島瀬美術センター	作品制作	佐世保市在住者	
2	5月11日(日)	佐世保市民展作品搬入	島瀬美術センター	作品搬入・審査	佐世保市在住者	
3	5月24日(土)～25日(日)	県北地区デッサン大会参加	佐世保西高校	外部講師によるデッサン指導		12時間
4	6月20日(金)	佐賀大学見学会	佐賀大学	大学訪問		6時間
5	7月下旬	県デッサン大会参加	長崎工業高校	県内美術教師によるデッサン指導		15時間
6	8月6～8日	日本画集中講義	波佐見高校	外部講師による日本画指導		15時間
7	5月～9月	長崎県展作品制作	波佐見高校	作品制作	絵画・デザイン・工芸から選択	
8	9月3日(水)	長崎県展作品搬入	長崎県美術館	作品搬入・審査	全員出品	
9	9月19日(金)	長崎県展見学会	長崎県美術館	作品鑑賞		4時間
10	9月～12月	高校美術展作品制作	波佐見高校	作品制作		
11	10月11日(土)～12日(日)	畑の原窯焚き実習	畑の原窯跡	窯焚き実習	陶芸部	10時間
12	11月13日(木)～16日(日)	美術・工芸科新設記念展	町内展示会場	4月から制作した作品を展示		12時間
13	11月21日(金)	崇城大学見学・展覧会鑑賞	熊本県	私立大学見学・作品鑑賞		6時間
14	12月6日(土)	美術系学校進学説明会	波佐見高校	保護者向け美術系学校説明会	美術系大学・専門学校	3時間
15	12月15日(月)	高校美術展作品搬入	長崎県美術館	作品搬入・審査		
16	12月19日(金)	波佐見高校卒業制作展見学会	島瀬美術センター	作品鑑賞会		2時間
17	12月20日(土)	高校美術展作品鑑賞会	長崎県美術館	作品鑑賞会		4時間
18	1月中旬	県外美術館見学	九州陶磁文化館	作品鑑賞会		3時間
19	1月25日(日)	佐世保美術展出品・交流会	島瀬美術センター	作品搬入・交流会参加		5時間
20	3月21日(土)	校内デッサンコンクール	波佐見高校	作品制作		6時間



長崎県立波佐見高等学校
美術・工芸科
学科紹介 vol.1
 2014. 4月～8月

ご入学 おめでとうございます！

皆さん、ご入学おめでとうございます。長崎県内公立高校初の美術系学科「美術・工芸科」が本日よりスタートします。「一芸に秀でる者は多芸に通ず」の諺のとおり、優れた感性を磨き養うことで、新たな自信や目標へと繋がっていくような学校生活を送って欲しいと思います。「美術・工芸科」として更なる飛躍を胸に抱き、波佐見高校の新しい歴史の一步を共に歩んでいきましょう。



入学式翌日の集合写真 2014.04.09

佐賀県立美術館・佐賀大学見学会！

6月20日(金)、午前中は、佐賀県立美術館で開催中の「ポーラ美術館コレクション展」の作品鑑賞を行いました。

ポーラ美術館コレクション展は、モネ、ルノワールからピカソまで、美術史にその名を残す画家たちの19世紀の印象派から20世紀にいたる西洋絵画の名品72点が勢ぞろいしています。有名な作家の作品を間近に鑑賞することができ、貴重な機会となりました。この展覧会の来場者数は会期中、6万3512人の来場者を迎え、盛会のうちに閉幕しました。



「レースの帽子の少女」
 1891 制作
 ピエール・オーギュスト・ルノワール

午後から佐賀大学の見学を行いました。

平成28年度から佐賀大学に芸術学部が新設されることになっており、その概要や入試について、佐賀大学准教授(油絵)の小木曾先生に説明をしていただきました。



模擬授業(コンテを用いたクロッキーの実演)では、20分で描かれていく絵を真剣な眼差しで熱心に見学していました。

美術棟・工芸棟、大学美術館の施設見学も行い、充実した見学会となりました。

第47回佐世保市民展の結果！

平成26年5月16日(金)から25日(日)まで、佐世保市島瀬美術センターにて開催された「第47回 佐世保市民展」において、2年3組 西村 美香さんの作品「ALL MY LOVE」が、デザイン部門最高賞である佐世保市長賞に選ばれました。1年5組の入賞・入選の結果は以下の通りです。

<奨励賞>

西村 夏希 「The step of many colors」

<入選>

- 出田 正 「せまる危険」
- 宮崎 和儀 「ぼくをみつけて・・・」
- 伊佐 美咲 「心のお掃除」
- 高比良美澤 「勇気を出して」
- 中島 渚奈美 「画面越しの言葉。」
- 原口 彩 「BLUE SPRING」
- 前山 朋華 「それ以上切っても、いいんですか?」
- 栢田 真由美 「colorful」

県高等学校デッサン大会！

8月2日(金)～4日(日)、長崎工業高等学校で開催された、県高等学校デッサン大会に、美術・工芸科1年生全員が参加しました。



3日間、静物・石膏・人物・風景デッサンにわかれてモチーフに向かい合い、デッサン力を身につけるために取り組みました。

長崎市市内での開催だったので、ホテルに宿泊しました。さながら旅行気分も味わえた楽しい行事になりました。

平成26年度県北地区高等学校デッサン大会！

5月24日(土)～25日(日)、佐世保西高等学校で開催された、平成26年度県北地区高等学校デッサン大会に、美術・工芸科の生徒が全員参加しました。与えられた静物デッサンのモチーフは、基礎コースとしては難しいものでしたが、2日間黙々とモチーフに向かい合い、自らのデッサン力を磨くために真剣に取り組みました。県北地区の高等学校から190名ほどの参加者が集まり、活気あふれる大会になりました。



長崎県立波佐見高等学校
美術・工芸科
学科紹介 vol.2
 2014. 8月～9月

専攻デザインコースが美術・工芸科に
CHANGE
 選択の幅が広がり、専門的に学べる
CHANGE

日本画集中講義!

8月6日(水)～8日(金)、日本画の集中講義を実施しました。イラストレーターとして活躍されている安永義朗先生(佐世保市在住)を講師としてお招きし、日本画の基礎的な表現方法を学びました。



テーマは「夏野菜を描こう」。キュウリ、トマト、ピーマン、ナス、グレープフルーツを各自で組み合わせてデッサンし、日本画の画材で描きました。



初めて扱う画材に、ぎこちない様子の生徒たちでしたが、丁寧な指導のおかげで伸びやかな作品に仕上がりました。

長 崎 県 立 波 佐 見 高 校

2014年(平成26年)8月13日 水曜日

波佐見高 **日本画の基礎学ぶ**

東彼波佐見町長野郷の県立波佐見高(野田定延校長、439人)で6～8日、美術・工芸科の夏期集中講義「日本画の基礎を学ぶ」があり、生徒20人が外部講師の指導で夏野菜の静物画作品を仕上げた。

同科は本年度新設で、生徒は陶芸、油彩、デザインなどを学ぶ。来年度から日本画の授業も加わる予定で、事前に基礎を学ぼうと集中講義を開催。佐賀大で日本画を専攻したイラストレーターの安永義朗さん(42)＝佐世保市在住＝を講師に招いた。



安永さん(右)の助言を受けながら、日本画を描く生徒たち
 『県立波佐見高』

新設の美術・工芸科

安永さんは「西洋画は光と影を強調するのに対して、日本画は物自体の質感を引き出して日本の美意識を表現する」などと説明。生徒は、にかわ液と水干(すいひ)絵の具を混ぜて日本画用の絵の具を作り、ナスやピーマン、トマトなどを描いた。1年の栢田真由美さん(15)は「絵の具を自分で作ったのは初めて。乾くと色が変わってしまい描くのが難しいけど、慣れてくると面白い」と話した。(宮崎智明)

長崎県展、1-5は入賞2名・入選7名!

6月から夏休みにかけて取り組んだ長崎県展。波佐見高校生が入賞4名・入選15名という結果になりました。これまで最多入選者数となりました。

1-5の生徒の結果は以下の通りです(入賞2名・入選7名)。初めて挑戦した長崎県展でしたが、今回の制作を通して感じたことを次の公募展に向けて生かして欲しいと思います。今年、入選できなかった人も挫けずに来年に向けて作品の構想を練り、再度挑戦しよう!!

※絵画部門の入選は、波佐見高校初!
 工芸部門の入選は4年ぶり!
 デザイン部門の16名入賞・入選は過去最多!
 全部門の入賞・入選者数19名は過去最多!!
 (県内の公立、私立高校のなかでNo.1!!)

【デザイン部門】

	<p>0.0001% 入選 太田 詩乃 「傷つく言葉、言わないで」 中島渚奈美 「猫の思い」 橋本 朔良 「Let's eat!」 前山 朋華 「パピコッターまちがえていませんか?」</p>
--	--

西村夏希「時のうつろい」 原口彩「水との共存」
 長崎新聞社賞 KTN賞

【絵画部門】

<p>高比良美滯「群翔」 入選</p>	<p>吉村沙弥香「つなぐ」 入選</p>
--	---

【工芸部門】

<p>太田龍雅「雅」 入選</p>
--

長崎県展見学会!

9月17日(金)、長崎県展見学会を実施しました。長崎県展とは、県内の美術愛好者が他部門にわたり作品を出品する公募展です。

15歳の高校生から90歳代の高齢者の方々まで出品者の年齢は様々です。しかし想いは一つ、自己の美的表現を追求すること。毎年、県内から素晴らしい作品がたくさん集まります。絵画・デザイン・工芸・彫刻・写真・書、いろいろな部門の作品を鑑賞し、今後の制作活動に生かしてください。



絵画部門

工芸部門

デザイン部門



長崎県立波佐見高等学校

〒859-3725 長崎県東彼杵郡波佐見町長野郷 312-5
 TEL 0956-85-3440(事務室) 85-3215(職員室) FAX 0956-85-6105
<http://www.news.ed.jp/hasami-h/>

4 中高連携陶芸教育について

波佐見高校は波佐見中学校との陶芸を通じた交流学習を毎年行っています。この行事は町教育委員会主催で平成17年度から実施されており、今年で10年目を迎えました。中学校と高校との中高連携陶芸教育を、町教育委員会が主体となって地域に協力を呼びかけ、各自治会や町内陶磁器業界関係者のご協力を経て開催されています。

(1) 波佐見中学校1年生(136名)と陶芸デザインコース3年生(17名)との作陶交流

■期日：平成26年7月10日(木)

■会場：波佐見中学校

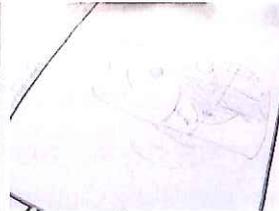
■活動：マグカップの制作



磁器土のタタラ制作



制作指導



アイデアスケッチ



作品完成

(2) 作品の窯づめ(国指定史跡 畑ノ原登り窯)

■期日：平成26年10月4日(土)

■会場：畑ノ原登り窯(波佐見町)

■活動：中高生の陶芸作品の窯づめ



登り窯内部



窯づめの作業風景



窯づめを地域の方に学ぶ

(3) 登り窯焼成体験(国指定史跡 畑ノ原登り窯)

■期日：平成26年10月11日(土)~12日(日)

■会場：畑ノ原登り窯(波佐見町)

■活動：薪を使用した陶芸作品の焼成体験



火入れ式



胴木間



せめ茨き(還元焼成)

(4) 作品の窯出し (国指定史跡 畑ノ原登り窯)

■期日：平成26年10月19日 (日)

■会場：畑ノ原登り窯 (波佐見町)

■活動：陶芸作品の窯出し



窯出しの様子



中学生の作品



自然釉の作品

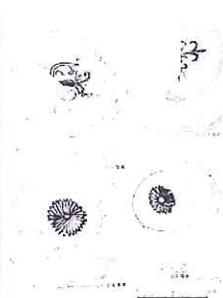
※畑ノ原登り窯・・・築窯推定年代は慶長4年頃(1599)とされ、波佐見町最古の窯跡といわれて

ています。窯跡の範囲確認と保存整備のため、1981年金沢大学によって発掘調査が行われました。窯は
燃焼室部分を欠失していますが、残存長さ55.4m、24室を擁する登窯です。窯跡の右側には排水溝が掘られ、
左側には通路や物置場となった階段があり、焼成室の出入り口は左側に位置します。廃品は階段から丘陵
の斜面に捨てられ、斜面に残る物原の堆積層は薄い。陶器の他にわずかだが磁器も焼かれています。窯を
代表する木灰釉の溝縁皿は陶器生産が肥前各地に拡大した段階のもので、磁器生産が主流となる直前のも
のと思われることと、17世紀後半頃から肥前地域で使われ始めたトンバイ(レンガの一種)は使用され
ず土壁で築かれているため、17世紀前半頃まで使用されたとみられています。

平成12年(2000)9月6日、肥前磁器生産開始期の様相を伝える窯として波佐見焼の歴史を語る
上で欠かせない5基の古窯跡と2箇所の窯業関連遺跡が国史跡に指定されました。



畑ノ原窯跡



当時、生産されていた皿



畑ノ原登り窯(復元後の現在)



登り窯の内部

参考文献・参考資料

- ・ながさきのやきもの 波佐見焼 Handbook
- ・波佐見町ホームページ
- ・波佐見町観光協会ホームページ